

就任のごあいさつ

(財) 高度情報科学技術研究機構理事長

関 昌弘

4月1日に当機構の理事長を拝命致しました。昭和44年日本原子力研究所に入所以来37年にわたって新型炉や核融合研究開発の現場で仕事をしてきました。情報科学技術研究と直接関係を持った経験はありません。このような状況でいきなり理事長という重責を仰せつかりました。これまで当機構を指導してこられた歴代理事長の経歴と実績を振り返ると身の引き締まる思いです。他方、フレッシュマンらしい高揚した気持ちも同時に持ち合わせています。この分野の新人として、全力でこの仕事にあたります。よろしくご指導をお願いします。

核融合の分野ではITERと呼ばれる国際熱核融合実験炉の建設が、まもなくフランスカダラッシュで始まろうとしています。このような科学技術分野における国際協力の大事業に参画できたのは、私にとっても非常に楽しい経験でした。核融合の分野においてもシミュレーションは研究開発の重要な一要素であり、むしろ核融合研究がシミュレーション技術を先導してきた面もあります。当機構が今後この分野へも関与を深めていくと期待しています。

計算科学の分野では、我が国が世界に先駆けて開発しようとするいわゆる次世代スパコン、京速計算機のプロジェクトがあります。これは、理化学研究所を中心に我が国が総力を挙げて取り組むものですが、当機構としては、これまでに蓄積した経験と培った能力をもって計画に参画していくことができるよう、努力を続けたいと考えています。

当機構の経営については、今後とも厳しい環境が続くことは避けられません。経営の合理化は当然です。当機構は、それぞれ生い立ちの異なる東海と東京の2つの事業所から成り立っていますが、今年度から組織を一本化し新しい体制で仕事を進めます。

しかし、合理化を図るだけではなく、新しい事業の展開と人材の育成も不可欠と考えています。機構の歴史を踏まえ、内外の期待に応え、国の大型プロジェクトにも積極的に参画しつつ、「研究機構」としてさらに実力を涵養するべく力をつくしていきたいと思えます。

皆様の一層のご支援、ご鞭撻をよろしくお願いする次第です。